

令和元年 10 月 16 日

会 員 各 位

構 造 懇 話 会
会 長 森 川 英 典

第 508 回 構造懇話会 令和元年度 例会のご案内

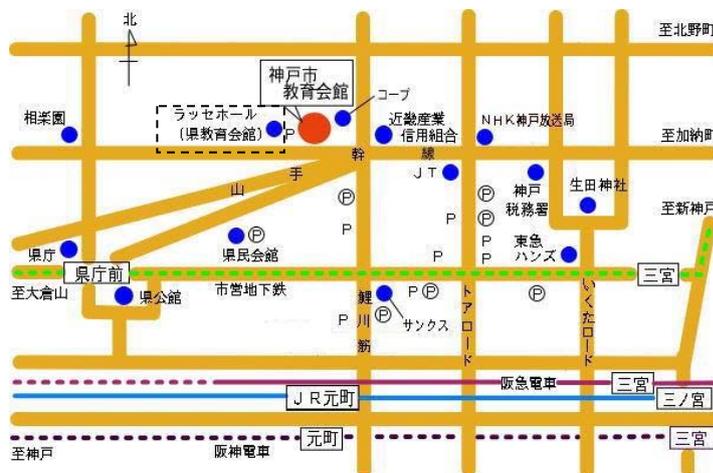
構造懇話会の運営に際しまして、常日頃よりご支援賜り、誠に有難うございます。
今年 1 月「50 周年記念新例会」行事の第Ⅱ部では「公開座談会」を予定していましたが。
しかし、この「公開座談会」は、時間の都合で開催できませんでした。
このたび、改めて令和元年度 10 月度例会行事(フリートーキング)として、開催させて
頂きます。会員の皆様方には多数ご出席くださり活発なご討議を期待しています。

記

1. 日 時 令和元年 10 月 21 日 (月) 13:30～16:45
○例会終了後、懇親会(17:20～19:20、会費制)を開催いたします。
2. 場 所 神戸市教育会館 404 号室
神戸市中央区中山手通 4-10-5 TEL 078-222-4111
3. 議 題
テーマ「構造懇話会 50 年の過去・現在・未来を考える」を企画しました。
○詳細はプログラムをご参照ください。
○ご出席者は「構造懇話会 50 年のあゆみ」をご持参下さい。
(ご配布済み)

[連絡先] 〒567-0087 大阪府茨木市丑寅 2-1-34
協和設計 株式会社 赤木 昌詩
TEL : 072-627-9351 / FAX : 072-627-9357 / e-mail : akagi@kyowask.co.jp

[案内図] □印：例会会場 神戸市教育会館 404 号室
□印：懇親会会場 ラッセホール地下 1F パンジー



構造懇話会 URL <http://www.kozokonwakai.org/>

第 508 回 構造懇話会 例会プログラム

日 程 : 令和元年 10 月 21 日 (月)
時 間 : 13 : 30~16:45
場 所 : 神戸市教育会館 404 号室

記

1. ごあいさつ 13:30~13:40
構造懇話会 会長 森川 英典
2. 例会 第 I 部 [基調講演] 13:40~15:00
基調講演 I (40 分質疑応答を含む)
テーマ「 構造懇話会の更なる発展に向けて 」
第 3 代構造懇話会 名誉会長 櫻井 春輔 氏
基調講演 II (40 分質疑応答を含む)
テーマ「 阪神高速の橋 」
阪神高速道路株式会社 金治 英貞 氏
休憩 15:00~15:10
3. 例会 第 II 部 [公開座談会]
～構造懇話会 50 年の過去・現在・未来を考える～
 - (1) 会員の話題提供(まとめ) 15:10~15:40
個人会員 「構造懇話会の活性化策について」 石原 靖弘 氏 日本ファブテック株式会社
特別会員 「構造懇話会の更なる 50 年を目指して (一先人の知恵に喝采を！)」
中垣 亮二 氏 (一社)日本橋梁建設協会
特別会員 「構造懇話会の役割に思うこと」 山上 哲示 氏 株式会社日本工業試験所
団体会員 「構造懇話会に期待すること」 赤木 昌詩 氏 協和設計株式会社
団体会員 「構造懇話会幹事の仕事」 二葉 悟 氏 高田機工株式会社
 - (2) 公開座談会 15:40~16:40
本会の新しい旅立ち、未来のあるべき姿を出席者全員で語る「公開座談会」
 - I. 構造懇話会の今日までの活動内容について
 - II. 構造懇話会の今日までの運営形態について
 - III. 構造懇話会の会員・企業・団体としての長所・短所について
 - IV. 構造懇話会の今後について
 - V. その他
*資料 ; 50 周年記念誌「構造懇話会 50 年のあゆみ」
4. 閉会の挨拶 16:40~16:45
構造懇話会 副会長 嵯峨 晃

第 508 回 構造懇話会例会 基調講演の報告概要

基調講演Ⅰ. 『 構造懇話会の更なる発展に向けて 』

①報告者

第3代構造懇話会名誉会長 櫻井 春輔 氏

②報告内容

構造懇話会は50年前に当時の原口忠次郎 神戸市長が「夢の架け橋」(明石海峡大橋)として提唱されたことを受けて、大学、行政、鉄鋼メーカ等が中心となり、自由に発言し意見交換の出来る場として設立された。しかし、明石海峡大橋の夢が実現し 構造懇話会の当初の目標が失われると構造懇話会の参加団体は徐々に少なくなっていった。通常は発注者が計画した具体的なプロジェクトに対して、各企業が受注につなげる努力をする。その場合、各企業は意見交換を行う必要は無く、むしろ互いに受注に対してライバル関係になる。しかし、構造懇話会が先に提案した関西空港と神戸空港を結ぶ水中トンネル・プロジェクトは、発注者が提案したものではなく、構造懇話会が部会をつくり検討し提案したものである。其処では 構造懇話会のメンバーはむしろ参加しておかなければ遅れをとることになるため、4年以上も互いに協力し合っってその実現に向けて検討したと思う。この度の構造懇話会の例会では、この水中トンネル・プロジェクトについて講演する。

更に神戸大学の卒業生が中心になり その実現に向けて努力したプロジェクトがある。それは「六甲シンフォニーホール・プロジェクト」である。このプロジェクトも発注者が発案したものではない。しかし、その実現に向けて多くの企業が協力して下さった。このプロジェクトはいよいよ正式にスタートする矢先に阪神・淡路大震災によって残念ながら中止になったが、このプロジェクトを通して多くのことを学ぶことが出来た。この度の構造懇話会の例会では、このプロジェクトがどのように発案され検討され、発注者(神戸市)の賛同を得て実現に向かったかについても講演する。これらの事例から得た教訓；

「構造懇話会は発注者が考えたことの無い 新しい発想によるプロジェクトを提案し、その実現に向けてメンバー全員が協力し合っって努力すれば、構造懇話会は常に魅力的な集団で有り続けることが出来る。」

基調講演Ⅱ. 『 阪神高速の橋 』

①報告者

阪神高速道路株式会社 金治 英貞 氏

②報告内容

阪神高速の総延長は250.4 km、そして大半が橋やトンネルなどの構造物です。阪神高速道路公団の設立は1962年、そしてその1年半後に最初の高架橋部が開通して以来、50年以上にわたりその整備延長が伸びてきました。この50年を振り返ると、公団設立時、万博期、ベイエリア形成期、大震災期、本格的な維持管理期、さらにミッシングリンク解消期に分けることができます。講演では、阪神高速の橋を中心に、懇話会のテーマに歩調をあわせこの50年を振り返り、次世代の構造物の在り方について述べたいと思います。